



KubeCon発表採択への道 ～コミュニティ開発者の場合～

2024/4/23

株式会社 日立製作所 デジタルシステム&サービス マネージド&プラットフォームサービス事業部
プラットフォームソフトウェア本部 プラットフォームサービス部

木村 将希



名前: 木村 将希
所属: 日立製作所
Github ID: [mkimuram](#)



コミュニティ活動歴:

- 主にSIG Storageで活動
- [Raw Block Volume機能](#)・[CSI機能](#)のBeta/GA昇格に貢献
- [CrossNamespaceVolumeDataSource](#)の機能を設計。現在[Alpha](#)でマージ済み

KubeCon Europe 2023で講演した経験の共有

- 何を話したのか
- 講演・参加するメリット
- 採択されるコツ



Cloud Native Computing Foundation(CNCF)が主催する代表的なカンファレンス。
適用したユーザーと技術者が集まる。

KUBECON + CLOUDNATIVECON

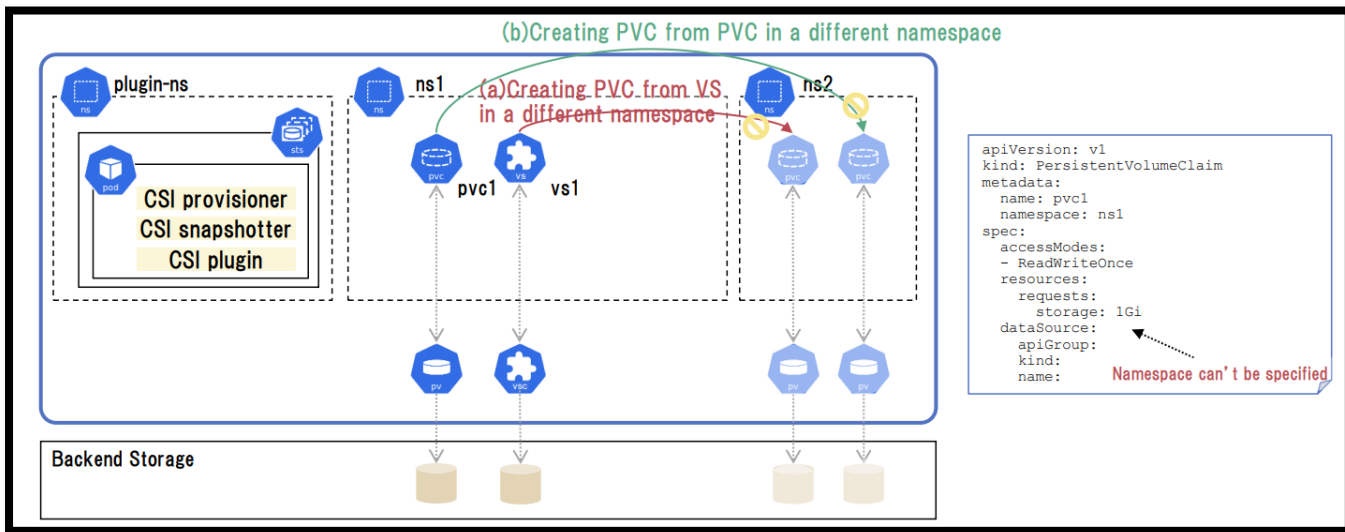
The Cloud Native Computing Foundation's flagship conference gathers adopters and technologists from leading open source and cloud native communities.

#KubeCon + #CloudNativeCon

<https://www.cncf.io/kubecon-cloudnativecon-events/>

- 冬(11～12月)に北米(North America)で、春(3～4月)にヨーロッパ(Europe)で開催
 - 2024年は12月にインドで開催予定
 - 2018年～2019年は中国でも開催されており、2023年から再開
- 参加人数は年々増加傾向
 - KubeCon Europe 2023は10,500人が現地参加・6,000人がバーチャルでの参加で、ヨーロッパで最大のOSSのイベントとなった(2024で記録更新)

- タイトル: Across Kubernetes Namespace Boundaries: Your Volumes Can Be Shared Now!
- 発表者: Masaki Kimura & Takafumi Takahashi, Hitachi
- 発表日時: 2023/4/20 17:25 - 18:00
- 発表内容: k8sの1.25以前は、namespaceを跨いでPVC/スナップショットからのPVCの作成ができなかった課題を、CrossNamespaceVolumeDataSource機能(1.26でalpha)を実装して解決した。

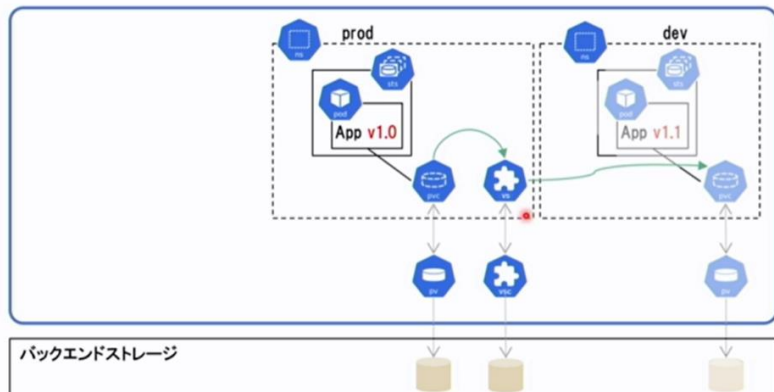


<https://sched.co/1HyVT>



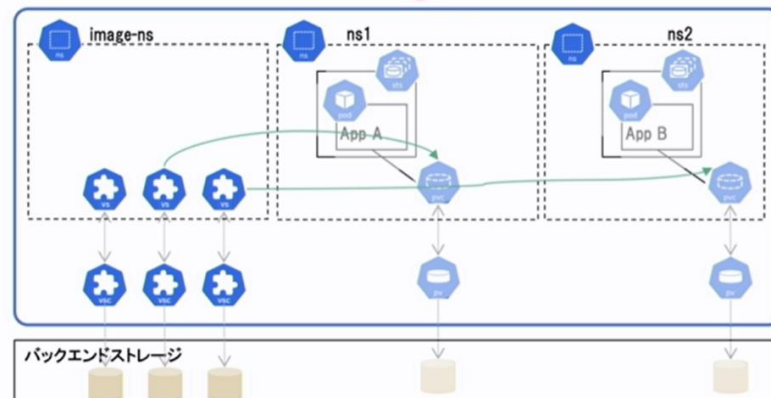
2-2 namespace跨ぎのボリュームのユースケース (1)

- 本番のnamespaceから、開発のnamespaceにデータをコピー
 - 開発環境でのテストデータとして利用
 - 機械学習用のデータとして利用



2-3 namespace跨ぎのボリュームのユースケース (2)

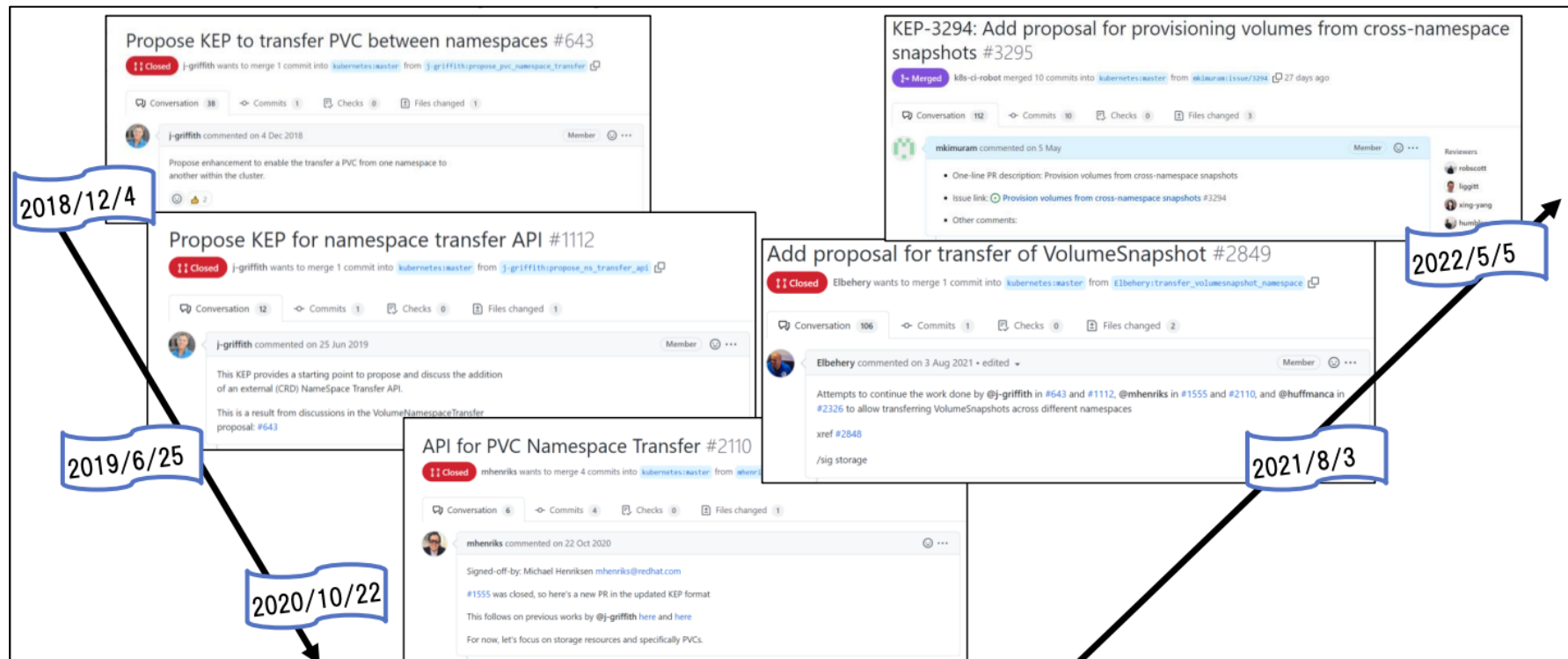
- 複数の他のnamespaceから、別のnamespaceにあるgolden imageを利用
 - kubevirtの起動イメージ
 - 共通で利用可能な、汎用的な初期データ・テストデータ等



※ 同様の内容の発表をCloudNativeDays Tokyoでもしているので、日本語で見たい方はこちらから。

<https://cloudnatedays.jp/cndt2022/talks/1521>

主導するエンジニアが変わりながら、4年ほど、仕様を議論し、着地



登壇時の様子



現地での聴講者は200名程度

Boundaries: Your Volumes Can Be Shared Now! - M Kimura & T Takahashi

後で見る 共有

SnapshotContent (2/2)

HITACHI
Inspire the Next

SnapshotContent (VSC) and VolumeSnapshotContent (VSC) creates a cluster-scoped resource specified in a VS and snapshotter creates a VSC referenced from

from PVC

Example of VS:

```
apiVersion: snapshot.storage.k8s.io/v1
kind: VolumeSnapshot
metadata:
  name: vs1
  namespace: ns1
spec:
  source:
    persistentVolumeClaimName: pvc1
```

Example of VSC:

```
apiVersion: snapshot.storage.k8s.io/v1
kind: VolumeSnapshotContent
metadata:
  name: snapshot-xxxx
spec:
  deletionPolicy: Delete
  driver: snap
  snapshotter:
    volumeHandle: xxxx
    volumeSnapshotClassName: snap
    volumeSnapshotter:
      apiVersion: snapshot.storage.k8s.io/v1
      kind: VolumeSnapshot
      name: vs1
      namespace: ns1
```

Backend Storage
(3) Creates an actual snapshot

その他の動画

6:50 / 34:54

YouTube

【自分のメリット】

- ✓ 自分のプレゼンスの向上
 - 自身の技術力の外部からの認知 → よりチャレンジングな仕事の獲得
転職に有利？
- ✓ 人脈の形成
 - 最新の技術を持った人と知り合いに → 技術を手
情熱・刺激を共有

【会社のメリット】

- ✓ 会社の社外向けのプレゼンスの向上
 - 製品・サービスの認知度の向上 → 受注・売り上げに貢献
 - 先進技術への取り組みの認知 → 優秀なエンジニアの獲得に貢献
- ✓ 部署の社内向けのプレゼンスの向上
 - 同僚への刺激 → 優秀なエンジニアのモチベーション向上に貢献

イベントへの参加だけでも、上記の一部は得られるので、まずは参加・聴講から！

参加者全体の
集合写真



<https://sched.co/1LXGp>

SIG-Storageの
F2Fミーティング



SIG-Storageの
Tech leadのJan Safranek氏と
F2Fで初めて会う高橋さん



<https://www.flickr.com/photos/143247548@N03/albums/72177720307711329>

プロセス:



採択率:

- 当該発表(KubeCon EU2023): 単純計算で 10.5%程度 (186/1767)

KubeCon + CloudNativeCon Europeでは、632社、2672名の講演者から1767件の応募がありました。そのうち186件 347名の講演を受け入れることができました。詳しくは[こちらの発表ブログ](#)をご覧ください。

<https://www.cncf.io/reports/kubecon-cloudnativecon-europe-2023/>

1. 応募することが大事！
 - I. 応募しないと採択されない・・・当然ですが
 - II. めげずに応募が必要・・・KubeConのCFPは1勝9敗 ※他イベント講演実績5件以上有だが
2. 書き方が大事！
 - I. タイトルが大事・・・数が多いのでちゃんと読まれてないかも？
 - II. 応募先・カテゴリー・・・別イベント・ライトニングトーク等も候補、競争率の偏り
 - III. 書きっぷりも大事・・・過去の採択されたものを参考に
3. 結局、中身が大事！
 - I. 聴講者・コミュニティが得るもの・・・KubeConのCFPの“Benefits to the Ecosystem”の項目
 - II. それを与えられる、これまでの自分の活動・・・CFPがオープンしたら、見直してみる
 - III. そのために次のイベントまでにやること・・・逆算して、今後の活動を考える

ご参考)

- 「[FAQs for CFPs: A Beginners Guide to Conference Speaking](#)」(5分程度の動画)がオススメ
 - 自分自身の具体的な話をする事は、他の人にもできると思わせる意味もあり価値がある
 - 最悪ケース(非採択・発表で失敗)でも、大したことは起こらないと、自信をもって出す
 - あるイベントでCFPが非採択でも、同じトピックを違うイベントに出す

他の発表者の例から見る傾向と対策

新機能追加

トピック: ブロックボリューム
発表者: 谷野さん
イベント: KubeCon NA 2017
kubecon17/README.md

トピック: Buildkit
発表者: 須田さん
イベント: KubeCon EU2019他
<https://sched.co/MPX5>

トピック: NS跨ぎボリューム
発表者: 高橋さん・木村
イベント: KubeCon EU 2023
<https://sched.co/1HyVT>

メンテナートラック

トピック: Containerd
発表者: 須田さん・徳永さん
イベント: KubeCon EU2021他
<https://sched.co/iE6v>

トピック: SIG-Scheduling
発表者: 中田さん
イベント: KubeCon NA 2022
<https://sched.co/182PE>

トピック: SIG-UI
発表者: 武藤さん
イベント: KubeCon EU2022他
<https://sched.co/ytpx>

トピック: Keycloak
発表者: 中村さん・乗松さん
イベント: KubeCon NA2023他
<https://sched.co/1R2mH>

コミュニティ活性化

トピック: コード外の貢献
発表者: 太田さん
イベント: KubeCon EU 2021
<https://sched.co/iE1P>

トピック: Upstream Training
発表者: 武藤さん・解さん
イベント: KubeCon NA 2022
<https://sched.co/1CXMI>

Contributor
Summit

活用・Tips紹介

トピック: Pod Spec(Requests/limits)
発表者: 太田さん
イベント: KubeCon EU 2021
<https://sched.co/iE2K>

トピック: microservice認可
発表者: 田畑さん
イベント: KubeCon NA 2023
<https://sched.co/1R2ma>

事例・プラグイン

Lightning
Talk

トピック: kubectlプラグイン
発表者: 五十嵐さん
イベント: KubeCon EU2020
<https://sched.co/Zeq0>

トピック: TopoLVM
発表者: 武内さん・松田さん
イベント: KubeCon EU2020
<https://sched.co/ZerD>

トピック: オブザーバビリティ
発表者: 澤田さん
イベント: KubeCon EU 2023
<https://sched.co/1Hyd7>

トピック: FPGA/GPU活用
発表者: 園田さん
イベント: KubeCon EU2024
<https://sched.co/1YeMR>

トピック: In-Place Resize
発表者: 太田さん・五十嵐(Ozawa)さん
イベント: KubeCon EU 2024
<https://sched.co/1R2ma>

コミュニティに機能・コードを入れても、コード以外でも、自身の活用事例の共有でも

我々のCNCJ関連の活動がしやすくなる支援を！ ... 私の得るもの

1. この活動起点でビジネス価値が出る
 - 日立から提供する関連サービスを使ったビジネス協創
 - マネージドのOpenShift*1 ([パブリッククラウド向け・オンプレ向け](#))
 - マイクロサービス[活用支援](#)
 - OSS全般の技術的な[ご相談](#)
 - コミュニティへの機能入れ込みを含めた話など
2. 日本のCloudNativeビジネスやコミュニティ(CNCJ含む)が盛り上がる
 - CFPを出そう！
 - KubeCon NA 2024: [CFP期限 2024/6/9 11:59 \(MDT\(UTC-6\)\)](#)
 - KubeDay Japan 2024: [CFP期限 2024/5/19 11:59 \(JST\(UTC+9\)\)](#)
 - コミュニティへコントリビューションしよう！
 - Upstream Training
 - 前回: [2024/3/13](#)
 - 次回: TBD

*1: OpenShiftはRed Hat OpenShift Container Platformの略称です。

- OpenShiftは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の登録商標です。
- その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

END

KubeCon発表採択への道
～コミュニティ開発者の場合～

2024/4/23

株式会社 日立製作所 デジタルシステム&サービス マネージド&プラットフォームサービス事業部
プラットフォームソフトウェア本部 プラットフォームサービス部

木村 将希

A woman with her back to the camera, wearing a bright yellow long-sleeved shirt and dark jeans, stands on a green hill. She is looking out over a city skyline on the right and several wind turbines on the left. The entire scene is overlaid with a blue network of glowing nodes and connecting lines, symbolizing technology and innovation. The sky is a clear, vibrant blue.

Hitachi Social Innovation is
POWERING GOOD